

33

孫思邈の家族

猪飼 祥夫

関西支部

孫思邈の長子孫行の碑文が最近発見された。その結果、長い間論争が続いた孫思邈の生卒年代によりやく決着がついた。その碑文は「孫行墓誌」と呼ばれ、西安の大唐西市博物館の蔵されている。はじめに「大周故太子中允孫公誌文并序 鸞臺給事中徐彦伯篆文」とある。碑文によれば、孫行は久視元年(700)年に60歳で世を去っているの、生卒年代は(641-700)となる。

孫思邈の生卒年代には、509年出生説(曹元宇「関于孫思邈の出生年代」)、515年或518年説(黄竹齋「医仙妙応孫真人伝」、劉毓松「通義堂文集・千金方考」)、541年説(馬伯英「孫思邈生年考及年譜簡編」、干祖望「孫思邈評傳」、張田生「生態與長寿—孫思邈生年541説的前提論証」)などがあり、卒年は『旧唐書』『新唐書』の伝に永淳元年(682)とする。しかし、「歳百餘歳」の説から101歳説、120歳説、13歳説、141歳説、165歳説、168歳説まで想定されている。『四庫未収書目提要』と余嘉錫『四庫提要辨証』では、隋の開皇元年(581)年の生まれて、永淳元年(682)年卒とする。

この碑文を紹介した胡明墨(「從新出孫行墓誌探析藥王生卒年」)は、孫行の出生年代からして、581年説なら孫思邈は60歳の時の子供ということになるという。それ以前に孫思邈が生まれたならば、100歳に近い歳に子供が生まれるという矛盾になり、如何ほど養生の大家であろうともこれは不可能であろう。これでも相当年齢が高いと思われるが不可能ではない。また、孫行の服喪年代から孫思邈の卒年を永淳元年(682)とする。

曾祖父は孫融、いつの王朝かわからないが洗馬の職についていた。洗馬は太子の属官で図書や文章をつかさどる官僚である。祖父は孫孝冰、県令の職についていた。父は孫思邈である。李經偉(「孫思邈生平事迹研究」)が指摘するように、「孫思邈には、字もなし、号もなし、ただ名前だけ」とあるが、この墓誌でも字も号もわからない。墓誌には「俄丁母艱」とあり、母の死亡は孫思邈の死亡年より後であり、682年から700年の間である。孫行の子供は、墓誌には孫淑らとあることより、他にも子供がいた。陳曉捷等(「藥王孫思邈家世源流再考」)には、『元和姓纂』を引いて孫行には孫濟という子供がいたという。また『旧唐書』には孫思邈には、孫溥という孫がいたらしい。

孫行の墓誌には、その本貫を「太原中都人也」というが、『旧唐書』『新唐書』とも、孫思邈を京兆華原人という。京兆華原は今の陝西省耀県孫家塬にあたる。太原中都是山西省の太原市にあたる。すなわち、これまでの孫思邈を京兆華原の人とする見解に疑問が生じたわけである。

孫思邈には、家族がおり子供は一人で、孫は二人ないし三人だった。妻は孫思邈の後で亡くなった。